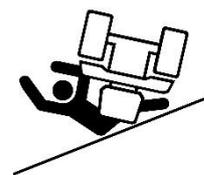


傾斜地が危ない



「すべって転ぶ」というのは、マンガの世界のお約束という感じがします。

しかし、転倒の事故は、現実世界のどの業種においても悩みの種になっています。実際に、休業4日以上の方災事故で最も多い原因は「転倒」なのです（なんと年間26,000件!）(*1)。

これは、農業にあっても例外ではありません。トラクタをはじめ乗用型の農業機械は傾きに弱く、転倒・転落が事故につながります。（農作業安全コラム vol.2 で触れています。）

また、農業機械のみならず、人間自体も得てして傾きが苦手です。

高齢の農業者の（農業機械を使わない）転倒・転落の事故を分析した研究によると、高齢者は「すべって」転倒することが最も多く、その原因は「傾斜地」だということです(*2) さらに、その作業内容は、草刈り、農薬散布などの「管理作業」となっています。

そもそも、年齢を問わず、傾斜地で作業するだけで心拍数が上がることも知られています。

そこで、傾斜地の安全対策なのです。

①スパイクの着用

傾斜地の滑り防止にはスパイクが有効です。

専用のスパイク靴もありますし、通常の作業靴などに取り付けるものもあります。

②作業現場の見直し

高さ2m以上、傾斜角40°以上の法面であれば、小段を設置することをお勧めします。

（法面の小段については、別回で紹介する予定です）

また、畦際など段差のあるところに境界線の目印をつけておくことも有効です。

これらは、安全面だけでなく、作業効率や作業負担においても効果があるといえます。

傾斜地農地の多い日本では尚更、「傾き」に敏感になってほしいと思います。

参考資料

(*1) 厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署「ストップ！転倒災害プロジェクト」

(*2) 百瀬義人・末永隆次郎

「福岡県の高齢農業従事者における農業機械が関わらない転倒・転落による傷害の特徴」